（松本地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	山小屋再生×地域創生プロジェクト
事業主体 （連絡先）	岩魚留小屋再生プロジェクト 松本市安曇 1039 番地 1
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,113,062 円（うち支援金：3,275,000 円）

事 業 内 容

長期間休業中の山小屋である岩魚留小屋と、そのふもとにあり高齢化が進み限界集落になってしまった島々集落。山小屋再生とともに集落も活性化させるため、岩魚留小屋再生プロジェクトを設立した。
R7 年度は、認知度向上とファンを増やす活動を実施。
・しましま本店　4 月 12 日
・歩荷ワークショップ　10 月 4,5,18,19,25,26 日（延べ 16 名）
・小屋見学ワークショップ　10 月 11-12 日、11 月 22-23 日（延べ 6 名）
・地元ガイド育成勉強会　11 月 5,26 日（延べ 6 名）
・モンベル講演会　3 月 22 日（約 100 名）

【歩荷ワークショップの様子】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①岩魚留小屋の認知度は低位に留まっていたが、講演会等の普及啓発活動を通じて、当該施設の歴史的価値および現状への関心を広く喚起することができた。
②事業参加者に対し、島々集落および岩魚留小屋の魅力を発信した結果、将来的な再訪意欲を醸成し、地域との継続的な関わりを持つ「関係人口」の創出に寄与した。
③徳本峠クラシックルートに精通した現地ガイドによる勉強会を実施。専門的な知見や歴史的背景を若い世代へ直接伝達することで、地域文化の継承および次世代の担い手育成を推進した。

【目標・ねらい】

① 認知度向上
② ファンを増やす
③ 知識を継承する

※自己評価【　B　】

【理由】
・広報活動により岩魚留小屋の認知度は向上したが、島々集落の周知には課題が残った。
・参加者の関心は想定を上回ったが、災害に伴う規模縮小により、波及効果は限定的に留まった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。（今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など）。

次年度は、これまでの重点施策である「認知度の向上」「コアなファンの育成」「知識の継承」を継続的に実施する。さらに新たな展開として、島々集落内に住民と登山者の交流拠点を整備し、岩魚留小屋単体のみならず、登山口としての島々への関心喚起を図る。この拠点は、地域住民と来訪者が直接交流する場となり、地域への愛着や理解を深める重要な役割を担う。歴史的ルートの保存活動と集落の活性化を一体的に推進することで、関係人口の拡大と持続可能な運営体制の構築を目指す。これらの多角的な取り組みにより、徳本峠クラシックルートの歴史的価値を次世代へ確実に継承していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある